

令和6年度第1回千代田区産業振興連絡調整会議 議事録

- 日 時：令和6(2024)年8月30日(金) 10:00~11:59
- 会 場：千代田区役所 8階 第3・4委員会室
- 出席状況：出席委員11人
- 千代田区：地域振興部長、商工観光課長、産業企画担当課長、商工振興係長、産業企画担当係長、経営相談・融資担当係長、観光・地方連携係担当係長、事務局2名
- 議 題：(1)令和5年度の取組実績の確認、令和6年度の取組状況と課題について
(2)産業コミュニティ形成支援事業について
(3)地域課題解決支援事業について
(4)レシートを活用した区民生活応援事業（レシ活ちよだ）の実績概要について

(議事要旨)

1. 開会あいさつ
2. 委員委嘱(2名)
3. 事務局紹介
4. 議事

※ ●：委員からの質疑 ➤：担当者回答

(1)令和5年度の取組実績の確認、令和6年度の取組状況と課題について

<事務局から説明>

●産業競争力強化法に基づく特定創業等支援事業について、令和5年度に年間の支援対象者数及び創業者数は既に目標数を上回っている。目標数を上方修正することを考えているか。

➤商工観光課長)今のところ修正等は考えていない。しかし、スタートアップ支援に取り組んでいくことで、支援対象者数及び創業者数が今後増えていくのではないかと考えている。

●スタートアップ・エコシステム構築に向けた支援について、「CULTURE × TECH」の動きはとても良いと思っている。特に学生アイデアソンのような若い層への支援は行政が行うべきである。一方でこのようなイベントは単発で終わりがちなことが多いため、持続性を持たせることや、千代田区ならではの資源を活用することが求められると考える。加えて区内には多くの研究機関及び教育機関が存在するため、研究者の方々の新たな発明をスタートアップや財源と紐づけて社会に反映していければ千代田区らしい産業振興になると感じている。

➤産業企画担当課長) 学生アイデアソンのような若年層からの支援については、学校におけるアントレプレナーシップ教育も含めて重要であると考えているので、来年度以降、どのような形で継続できるか検討していきたい。また、研究機関、教育機関といった千代田区が持つ多様な資源とスタートアップの結びつけも非常に重要なので、「CULTURE×TECH」を取り巻くステークホルダーの様々な意見を取り入れながら発展させていきたいと考えている。

➤商工観光課長) スタートアップ支援がどこに帰属するのか、また区民にどう実益を返ししていくかを考える必要がある。地域や行政の課題を汲みながら、適宜検討していく。

●スタートアップ支援というのはインキュベーションを対象としているのか、あるいはその次の段階であるアクセラレーションを対象としているのか。

➤産業企画担当課長) 創業前の方々を成長させること及び今実際に事業をされている方々が今後さらに飛躍するためにつながりをつくり、色々な企業との連携が図れるようにすることを両面でやっていきたいと考えている。

➤産業企画担当係長) 質問への回答として、スタートアップ支援はインキュベーション、アクセラレーションの両方を対象としている。アクセラレーションに関するイベントについては来年取り組めればと思い企画している。一方で、インキュベーションについては、現状具体的な取組みはできていないが、創業前の方々及び創業して間もない方々の意見を参考にしながら今後適宜検討していく。

●秋葉原は千代田区における外国人観光客を集客する重要な地域である。観光庁はサブカルチャーの聖地として秋葉原を評価しており、消費額5兆円達成のために1人当たり25万円の消費を目指している。秋葉原のNP0は国や行政の委託事業を受けているが、事業実施には住民や行政との協力が不可欠であり、国の予算は半年程度の短期間で実施されることが多く、また警察の許可などが必要となるため、事前の準備と根回しが重要である。国の予算を活用して新たな観光施策を実施するために、千代田区とともに外国人誘客促進の仕組みを整備できないかと考えている。

●観光庁は高付加価値の提供や消費を促進する仕組みづくりに力を入れている。それにより、オーバーツーリズムの問題も一部解決することができると考えているため、観光庁の支援を受けながら、我々も取り組むことができればいいと思っている。

➤商工観光課長) 観光庁の補助金を含め、多くの補助金が存在するが、課題として、住民への説明や実行までにどうしても時間が要すること、そして制度を抜け目なく整える必要

性が挙げられる。地域が一体となった実行委員会形式であれば可能性があると思う。

●イベントの実施について、区民の理解を得るために、区が後押しするような形で協力を得られないか。

➤地域振興部長）様々なイベントに取り組むに当たって、合意形成のプラットフォームを作ることが必要である。ただ、区が後押しするだけでは、十分な理解を得ることは難しいため、区と関係するステークホルダーの皆さんと連携し、システム面や組織面について強化していきたい。また、秋葉原で事業を行う人々に対しては、ライセンス制度のような事前のフィルターを導入し、セキュリティインフラと実施主体の信頼性を確保することができれば、区としても推せる体制となるのではないかと思います。ただ、現状ではこのような仕組みがないため、来年度以降、そういった仕組みが構築できないか検討していきたいと思う。

●住民や事業者から理解を得られるようなイベントを行う必要がある。システムを使った登録制度を導入し、信頼できる団体だけにイベントの開催を許可するといった基準を設けることで、秋葉原が持つ地域の魅力をより生かすことができると考えている。秋葉原のブランド力があるうちに、千代田区や事業者等の支援を得て、秋葉原の多様なコンテンツを活用し、外国人観光客が千代田区を巡るような仕組みをつくっていききたい。

➤地域振興部長）都市間競争の観点から見ると、秋葉原がその個性やブランド力を生かせない場合、その利便性の高い様々な業態の空間が、全く違う形で空洞化し、悪い繁華街化が進む可能性があると感じている。特に、短期的な収益を目指す資本が流入することで、長期的には秋葉原の個性とは無関係な方向に進む可能性があるのではないかと思います。そうした課題意識を持ちつつ、過去から引き継いだ秋葉原のブランド力を継承し、さらに発展させる方向で、公共空間でのイベントの可能性についても研究していきたい。

●商店街と大学の連携支援について、令和5年度は補助事業として3,000万円が予算措置され、検討を行った結果、様々なことが具体的な形となった。しかし、これらの活動が一旦終了したことで、現在は非常に寂しい思いをしている。企業が千代田区で成長するために、今後も学生から様々なヒントを頂きたいと思っているが、今後の方向性についてお尋ねしたい。

➤商工観光課長）どういったことに取り組んでいきたいか、それが時代に合った必要性のあるものかどうか、第一にあつてのことになるが、学生とともに、産業をつくっていく

ことは非常に大事なことで認識している。学生たちが千代田区や産業に愛着を持つような取り組みを推進していきたいと考えている。

●新産業振興について、e スポーツに関してはあまり進展がないように感じている。e スポーツを振興する際の難しさなど、今の感触をお尋ねしたい。

➤産業企画担当課長）昨年度、秋葉原のe スポーツへの親和性を探求し、予算を確保したが、公共団体が運営するには難易度が高く、QOLや学習効果の方が高いという話があった。また、他団体が実施した大規模イベントの成果は期待ほどではなかったため、方向性を修正し、生涯学習・スポーツ課と共にモーションキャプチャーのe スポーツ体験会を開催したところ、非常に成果が高かった。今後はイベントの実施を進めるのではなく、様々な意見を聞きながら、地域の課題解決にどう結び付けていくかを軸に考えていく。

➤商工観光課長）秋葉原でe スポーツを形にしようとしたがそれをどのように区民に還元できるかというところが難しく、検討中というのが実情。

➤地域振興部長）基礎自治体として大規模なe スポーツイベントを開催するのか、都市と一体化し、小規模な公共スペースやオンラインで楽しむ形のe スポーツができる空間づくりを行うのか議論が食い違っている部分がある。大規模イベントは区民のウェルビーイングやコミュニティとの関係性が薄く、それが継続した産業振興になるかという課題もあるため、まちと融合したe スポーツの在り方を今後検討していく。

●神保町でも外国人観光客の増加に伴い、店舗のトイレを利用されるケースが増えていて、店舗側の負担も大きくなっている。今後さらに観光客が増えた場合の地域の受け入れ状態としてトイレの問題は重要であると思う。

●清掃が大変であるかもしれないが公園にトイレがあることを広めてもいいのではないかな。

➤商工観光課長）土地の少ない千代田区でトイレを新たに造ることは簡単ではないが、トイレ利用に関する協力体制のようなものが作れるかどうかも含めて今後検討していきたいと思う。

➤地域振興部長）神保町の魅力は、中小の建物が低層部に古書店などの店舗を設けながら連なっている街並みであり、これを継承したいと考えている。しかし、同時にこれらの個々の店舗がトイレを共有するのは非常に難しいという課題がある。解決策として、一定の拠点的な開発のなかでトイレ等の機能を共有することで、神保町の地域課題としてのトイレ問題を解決できないか環境まちづくり部とも連携しながら、検討していきたいと思っている。

●地域に根差した産業振興の取り組みについて、地域に協力的な法人や大学の有無によって、活発な地域と疲弊している地域があるように感じる。区としても産業振興や観光に組みやすい地域があるのではないかと思うが、それではさらに、地域間格差が広がってしまうことを懸念している。区として、地域の特性に合わせた取り組みなど、考えていることなどあれば意見をお聞きしたい。

➤商工観光課長）千代田区は各地域がそれぞれよさを持っているため、そこを伸ばしていく必要がある。区民と事業者の方々が協働して何かできるか、また、区民ではないが千代田区にゆかりがあって、今も地域で活躍している方に対して何かできないか、現在検討している。

●地域に根差した産業振興の取り組みについて、秋葉原のデジタル文化と神保町の紙文化をうまく融合することによって、地域の活性化につながるのではないか。

➤産業企画担当課長）地域の声を直接聞きながら、今後検討していく。

●SDGs達成に向けた取り組みに対する支援に関して、フードシェアリングの表現（「廃棄される食品を消費者のニーズとマッチングさせて食品ロスを削減するフードシェアリング」の「廃棄される食品」の部分）については、様々な観点を考慮した表現にしたほうがいいと思う。

➤商工観光課長）表現について考慮が足りなかったと思う。訂正させていただく。

（２）産業コミュニティ形成支援事業について

＜事務局から説明＞

●アントレプレナーシップ教育の短期的な成果として、高校生や大学生が起業することが期待されるが、中長期的な視点も重要である。教育を受けた若者が海外の大学に進学し、将来的に千代田区に戻ってくるような循環が生まれることが望ましい。

➤産業企画担当係長）アントレプレナーシップ教育については、大学等の教育機関及び区内の事業者と連携しながら進めていきたい。

（３）地域課題解決支援事業について

＜事務局から説明＞

●アプリ（SASSY）が稼働すればスマートフォンで見ることができるのか。

➤産業企画担当係長）アプリ自体は既存のものであり、現在、区内の大学生と連携しながら

ら、アプリに区内の周遊スポットなどを載せている段階である。

(4) レシートを活用した区民生活応援事業（レシ活ちよだ）の実績概要について

<事務局から説明>

●レシ活ちよだは、消費喚起効果、経済効果がこれまで実施した消費喚起に関する事業の中で一番大きかったと思われるが、費用対効果も一番高かったのだろうか。

➤商工振興係長）ご認識の通りである。プレミアム付商品券を実施した際、事務費の割合が非常に高くなってしまったという課題もあり、レシ活ちよだの事業を採用した。そういった意味では、費用総額の77%以上が区民の皆様にポイントとして還元され、店舗の負担も少なく、より多くの買い物をしていただけたという意味で効果的であったと考えている。

➤商工観光課長）参加率は、子育て世代が高かった。ただ、興味深いデータとして、20代の参加率は13%であり、10代と70代の参加率よりも低いという結果が出ている。このようなデータがある一方で、スマートフォンに慣れていない高齢者の中には、参加が難しかった方も一定数いることが分かった。

閉会

座長）長時間のご審議ありがとうございました。閉会いたします。